



士別翔雲高校だより

学校通信 第167号 令和6年 3月 18日(月) 発行 校訓「一步前へ」

保護者の皆さまへ ー4つのお願いー

北海道士別翔雲高等学校長 北 村 京 一

生徒の健全な成長には家庭、学校、地域の連携は不可欠ですが、その柱は家庭教育にあると考えていますので4つのお願いを載せることにしました。

1 「しつけ」と「しつけ系」の重さ

「躰」は、中国から伝えられた漢字ではなく、日本で考案された漢字であり、いわゆる「国字」と言われるものです。分解すると「身」と「美」になり、「身だしなみを美しくする」という素晴らしい漢字です。

一方、「しつけ」という言葉は、もともと「着物を仕付ける」ということに結びついて成立した言葉であり、子どもをしつける過程の本質についています。「仕付け」とは、着物の形が整うよう、仮に縫いつけておくことを言いますが、そこで大切なことは、着物がやがて縫い上がると、しつけ系がはずされるということです。このことは言うまでもなく本人の自律に委ねることです。「しつけ」とはもともと自律に向け、さらには自律から自立に向けての「しつけ」です。言葉遣い、態度、心遣い等は大人になって、親に付けてもらったしつけ系を子ども自身が取っていく中で身に付けていきます。必要な時期に必要なしつけ系を付けることが大人の責任と考えています。

2 学校や家庭、地域社会が、子どもたちにとって「単なる温室」であってはならない

現代社会は物質的に恵まれ、利便性が追求されています。このような状況下で子どもに苦勞はさせたくないという保護者が多くなり「陽の当たる道ばかりを歩かせよう」とする傾向が強くなりつつあります。しかし、それでは子どもの「人間としての強さ」は育ちません。「湯き」は教育の不可欠な条件です。子どもたちに「我慢」を教えなければ、子どもたちは「我慢」を教えらる親にはなれません。「我慢」させなければならない場面ではしっかりした指導が必要です。「若いときの苦勞は買ってでもせよ」「かわいい子には旅をさせよ」という諺もあります。

3 ひたむきさや真面目さを評価し存在感を保障

今、子どもたちの世界では、真面目さやひたむきさ等が、いじめの対象になっている場合があります。真面目さやひたむきさをきちんと評価し、「同質さ」「要領の良さ」は必ずしも善ではないということを教える必要があります。また、子どもたち自身が、自分も他人のために、また、社会のために役立つ存在であるという自己肯定感を保障する必要があります。「気づかせる」「感じさせる」教育も不可欠です。

豊かな時代である現在の教育の視点は、「3Cの世界」を構築することにあると言われています。

- * 「過保護の世界」から「挑戦 (Challenge) の世界」を
- * 「与える世界」から「創造する (Create) 世界」を
- * 「一人の世界」から「協調 (Cooperation) の世界」を

4 目標及び目標となるモデルを持たせ夢を育む

子どもたちに、目標に到達し、乗り越えていく目標 (モデル) を持たせ、「あんな大人になりたい」「あんな生き方がしてみたい」等の夢を大切に教育をお願いします。先入観で「最初から無理だ、できない」という言葉を禁句にする気概を持たせてほしいと願っています。

70歳を超えてから世界最高峰エベレスト登頂に二度成功したプロスキーヤーである三浦雄一郎さんは「老いは怖くない。目標を失うのが怖い。目標がはっきりしないとただの怠け者になってしまう。」と目標を持つことの大切さを唱えています。

士別雪まつりをサポート！

2月3日(土)～4日(日)にかけて行われた「第69回しべつ雪まつり」に、野球部がオープニングセレモニーを行い、総合ビジネス科の1年生と生徒会執行部、ボランティア局がサポート役として参加しました。生徒は「天サイダー」の販売実習を行ったり、牛乳を配ったりすることを通して来場者とふれ合い、会場を盛り上げ多方面で活躍しました。



合同スキー授業

今年度のスキー授業は、和寒町東山スキー場で1・2年生が各学級2回ずつ行いました。その後、2月9日(金)にぴっぱスキー場にて1・2年生合同でスキー授業を行い、それまでのスキー授業で磨いた技術を発揮して、授業にのぞみました。

この日は、気温がやや低く雪が降る場面もありましたが、温もりのある日差しが生徒たちを照らす場面が多く、絶好のスキー日和でした。多くの生徒が学年の壁を越えて、友人たちと共にコースを周りながら、楽しくスキーをする姿が見られました。

怪我や体調不良等でロッジに待機していた生徒も、課題や各自の勉強に集中して取り組んでいました。



現役大学生による講話

2月28日(水)、令和3・4年度に卒業した6名を講師として迎え、在校生1・2年生を対象に現役大学生による講話を行いました。受験に向けての心構え、受験勉強の仕方、面接の準備などの受験体験と現在の大学生活を話してもらいました。講話の後半では質疑応答の時間をとり、より身近な生徒の疑問点に対しての答えやアドバイス等を在校生へ伝えてくれました。

生徒は講話の途中でメモを取りながら、真剣に話を聞き、自身の進路実現に向けての一步を踏み出す良い機会となりました。



祝！卒業！106名 翔雲からはばたく！



3月1日（金）、第17回卒業証書授与式が行われ、106名（普通科89名、総合ビジネス科17名）が学び舎を巣立ちました。今年度特筆すべき点として、平成30年度以来、5年ぶりに在校生が卒業式に出席して「卒業生を送る歌」を披露し、保護者や来賓などの出席数を制限せずに卒業式を実施したことが挙げられます。

来賓や保護者、教職員が見守る中、卒業生は呼名されるとしっかりと返事をし、北村校長から卒業証書を受け取りました。続いて3年間を通じて、欠席・遅刻・早退・欠課が一度も無かった生徒17名に皆勤賞が授与され、代表生徒の加藤 慶汰さん（3C）が表彰状を受け取りました。

さらに、商業教育で顕著な活躍をした生徒として、産業教育振興中央会賞に1名（3D）・全国商業高等学校長協会賞に小林 菜々心さん（3D）、全商3種目以上1級取得者を代表して小玉 彩楽さん（3D）に、表彰状が伝達されました。式辞・祝辞の後には、PTAからの記念品目録が代表生徒の工藤 咲太さん（3B）に手渡されました。

【皆勤賞】

井上 空	遠藤 慈空	佐々木拓海	古川 紫都	安田 怜央
和田 栖奈	川西 永愛	金野 菜那	齋藤 那月	佐藤 杏柚
加藤 慶汰	櫻田 萌花	高橋 美羽	矢野 友暉	矢野 優輝
山本 琉生	井上 敬斗			<敬称 略>



この通信は阿部新聞店様、道新平中販売所様、鈴木販売所様のご厚意により、地域の皆様に無料にて配布させていただいております。

〈発行〉北海道士別翔雲高等学校 担当：総務部 〈電話〉0165-23-2914 〈FAX〉0165-23-2911

〈ホームページ〉<http://www.s-shoun.hokkaido-c.ed.jp/> 〈E-mail〉s-shoun@hokkaido-c.ed.jp

※上記のホームページ（もしくは右記のQRコード）でカラー版をご覧ください。



文武両道の翔雲へ！

翔雲高校魅力化事業報告

学力向上助成事業

概要

学力向上を目的とし、模試・検定の補助やスタディサプリやClassi等の利用補助を行いました。希望進路の実現に向けたサポートをこれからも充実させていきます。

普通科1年生延べ約170名分、2年生延べ約210名分、3年生延べ約250名分の補助。検定については、総ビ科3学年で50名、延べ300名分、普通科20名、延べ50名分の補助をいただきました。

生徒の声

大学進学のためには模試の受験が必須です。そのための補助があることは大変に有り難いです。勉強により積極的に向かうことができます。 2年 植松さん

検定の補助は大変助かります。現在1級2種目を取得していますが、1級4種目を目指しているため検定料は負担になるので、その負担が軽減されると取得への意欲も上がります。 2年 本間さん



部活動魅力化事業

【エキスパート派遣事業】

概要

元NPB選手である大引啓次氏を講師とし、甲子園出場に向け、考え方等の人間力向上のための指導や、キャッチボール等の基礎的な技術指導を行いました。

5月、6月、1月にZOOMでの指導、8月、9月には現地での指導を行いました。

野球部だけでなく、他の競技にも広げ、より充実した部活動の環境作りに努めます。

選手の言葉

普段会うことができないような方に指導をいただける機会は本当に嬉しかったです。技術的な指導はもちろんですが、一流選手の考え方、考えの深さに共感し、自分の考え方を進化させることができました。

野球部 福井さん



探究学習事業

概要

生徒の視野を広げ、それぞれの進路実現に向け、札幌圏の大学視察、勉強合宿を実施しました。また、次世代の地域を担う人材を育成するため、旭川医科大学、星槎道都大学、北海学園大学から講師を招き、出前授業を行いました。

実施内容

7月 北海道大学オープンキャンパスツアー（全学年）
8月 3年生勉強合宿（3日間）
10月 大学教授出前授業



地域連携事業

概要

「高校生が地域を元気にする」を合言葉に、地域と連携した学習の取り組みを行いました。地域との関わりを深めることにより、士別市や翔雲高校の魅力を広く発信するための活動を行いました。

予定時期・実施内容

地域と連携した取り組み
市役所、観光協会、商店街組合等との町おこし企画

5～9月
新商品の開発
（リカー&フードかわい、2学年）
「サイバー（アイズ）」
缶バッジ
巾着
扇子など

6～12月
地域課題解決
（市役所、観光協会、商店街組合、1・3学年）
士別商店街のイベント企画
（商店街組合、1・2年）

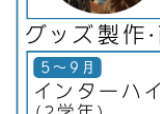
グッズ製作・商品開発
5～9月
インターハイに向けた準備
（2学年）



実習販売会

5～3月
道の駅での販売会
（全学年）

9月
商業教育フェア（札幌）等での販売会
（全学年）



生徒の声

様々な人と接することで、自分の考えを広げることができました。地元では、温かく受け入れられることが多いですが、外に出ればそうとは限りませんでした。そのような中でも、お客様とコミュニケーションをとるための積極性を身に付けることができました。 2年 高橋さん

その他の事業

学校PR事業

学校の魅力をより広く伝えるとともに、市外の中学校に向けてPR訪問を実施しました。

部活動備品購入

放送局備品としてノートパソコン及び動画編集ソフトを購入し、SNSなどでPR動画を配信しました。

下宿費補助

自宅からの通学が難しい生徒に対して下宿費用の補助を行いました。



Pick up!

国際局

今年新設された国際局には15名在籍し、各種大会への出場や国際理解に向けた活動をしています。所属している

5名が、士別市の補助をいただきオーストラリアへ短期留学を行いました。

今後も活動を充実させていきます。

